

《プロジェクト名 最上传承野菜“甚五右エ門芋”の6次産業化プロジェクト》

市町村	真室川町	対象地域	真室川町	分野	園芸
実施主体名	佐藤春樹	代表者氏名	同左	住所又は主たる事務所 の所在地・連絡先	真室川町
実施主体構成	1人				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	6,000千円（5,250千円）				
	独自の目標項目	里芋の栽培面積 15a → 120a				
各年次目標	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）
	産出額	750千円	2,500千円	3,500千円	4,500千円	6,000千円
	独自の目 標項目	里芋の栽培面積 15a	50a	70a	90a	120a
プロジェクト 概要	◎実施方針	芋煮用の皮むき芋を中心にホテル・旅館・料亭などに供給するために、栽培面積を拡大し、里芋の生産に必要な農機具や皮むきの一次加工に必要な機材を導入。同時に百貨店販売用のパンフレット、梱包用箱などの作成や里芋のブランドイメージアップを図るためホームページなどの販促物を作成し、6次産業化に取り組み、産出額の増加と雇用の創出を目指す。				
	○産出額の増大	山形の郷土料理といえば芋煮であり、それを提供するホテル、旅館、料亭で、美味しい県内産の里芋を求めている。昨年から、8割ほど契約栽培で、価格が安定しており、面積を拡大し産出額を600万に増加させる。また、百貨店での販売により個人のお客様の販路を開拓し産出額の増加に繋げる。				
	○雇用の創出	300人/日				
	○創意工夫	里芋は市場出荷ではなく、ホテル、旅館、料亭が受け入れやすいように皮むきし直接供給することで一次加工の付加価値をつけた販売とすること。また、個人向けの通販にも取り組み、販売先の大手百貨店にて試験販売すること。				
	○実現性	すでに、22年度分の皮むき芋は県内の調理師会へ売約済であり、個人向けの芋も伊勢丹新宿店への試験販売が内定している。				
	○地域への波及 効果	遊休農地の活用や転作に有効なモデルとなる。6次産業化のモデルとなり地域農業を活性化する。				
○その他	最上传承野菜ブランド化の先頭に立ち、地域に住む若者に農業の社会的意味、職業としての魅力を発信していきたい。					

		実施年度（平成22年度）
事業内容	農機具・機材の導入、ホームページ・パンフレット・箱の作成などの販促物、旅費、出展料、栽培指導・資材購入費など	